

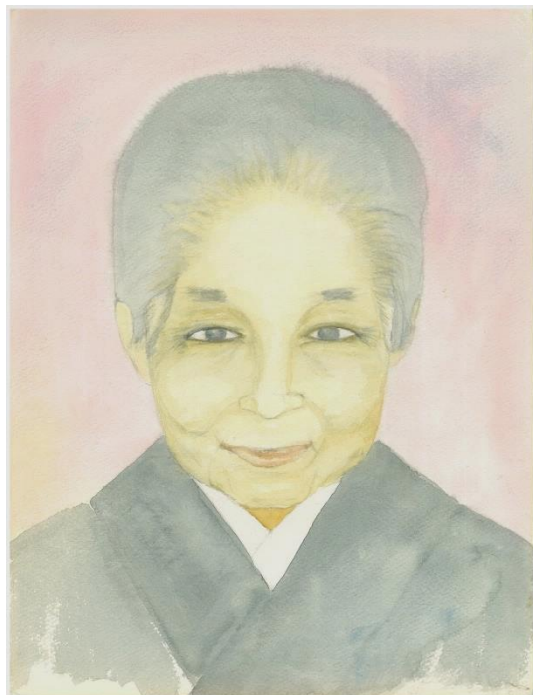
ほんにかえるプロジェクト 会報

かえるのうた

第13号 2018・4月

ほんにかえるプロジェクト発行
編集責任者：汪 楠

2016年1月創刊



画：故 松永忠夫

春待たず 逝きし人あり 如月の
齋場に聴く “慈しみ深き”

代表 田中伸彦

2月24日、落合齋場で、私たち「ほんにかえるプロジェクト」のスタッフ松永忠夫さんの告別式がご兄弟と知人一同によりとり行われました。

3月に予定されていた花見の宴にお誘いするつもりでいましたが、思いがけない突然のお別れとなりました。

2年前にお会いした時の、はにかむような笑顔の松永さんを想い、謹んでご冥福をお祈りします。

人はあたかも偶然のように出会い、ある日突然、別れの哀しみに襲われる。

今を生きる、また今を生かされている重みをしみじみと感じつつ、収監されている人たち、路上に迷う人たちとの繋がりを、松永さんの死をきっかけとして、これからも出来る限り長く保ち続けて行きたいと思います。

偲ぶ会について

毎月30日、就寝前の短い時間（2～5分）を使って祈りを求めている人の冥福を祈りましょう。次の祈りを参考にしてください。

主よ、この世を去った人々（名前を思い浮かべる）をいつくしみ深く顧みてください。

犯した罪を赦し、あなたの国に迎え入れ、ともに生きる喜びで満たしてください。

「偲ぶ会」への申し込み

希望者はご自分の名前

相手の方の名前（フルネームを載せていいか、イニシアルか。）

死亡年月日

一言：関係（両親・友人・被害者など）



松永忠夫氏—母への祈り

副代表 井手愛子



故 松永忠夫氏
1944年(S19)
12月20日誕生
2018年2月8日
帰天(享年73歳)
松永家6人兄弟
の第3子

2月8日忽然と旅立たれた松永さん、訃報を聞いた一瞬、いかなる反応も起こりませんでした。それから数秒?数分後、ものすごいエネルギーが沸き起こってきました。松永さんに、励まされているのを感じました。

初めて出会ったとき、氏は“話を聴いて欲しい”と囁くような強い語調で言われた。日を改めて、私は静かに耳と心を傾けた。生い立ちから犯罪に至る過程を、堰を切ったように言葉が流れ出る。優秀な兄弟姉妹に囲まれて劣等感を持つに至った。道を踏み外していく息子にたまりかねた母親から包丁を胸に突きつけられ、家を飛び出し、

悪の道に猛ダッシュしていったことを話された。

出所後まもなく、スケッチブックに獄中で描き溜めた絵を見せてもらった。風景画はどれも色が綺麗で上手かった。会報2・4・5・6・8号の表紙にさせてもらった。そのなかに1枚の夫人像があった。描かれた人と描いた人との間に、なんとも言えない想いが行き交っている。素晴らしい。

どなた? 静かな微笑をうかべて氏は黙っている。少しして“母です”と短く言った。ちょうど、氏が保護会から出て、部屋を借りたころだったので、この絵を額縁に入れて飾りましょう。お祝いに差しあげましょう。一緒に買いに行きましょう!と誘っても“うん”とは言わない。

数十年をかけて描きこめていった母親の絵。どれほどの語らいを繰り返したことか。痛恨の想い、疎まれし子の慕情を、歯をくいしばり、涙をこらえて線に色に滲ませた、松永忠夫の“おかあちゃん”。

額にいれることはない。部屋にかざることではない。対象化することはない。ふたりはずっと一緒だから。

神よ、深い涙から あなたに叫び、嘆き祈る 私の声を聞いてください。詩編130

松永さんを偲んで

事務局長 汪 楠

私と松永さんが出会ったのは 2003 年ころで、岐阜刑務所の第 5 工場でした。私が 2000 年の 8 月に銀行相手の詐欺事件で大分県で逮捕され、一審判決は 13 年の実刑で、控訴せずに服役することにした。

私は中国国籍ですので、外国人 (F 級) の多い刑務所に送られると思っていましたが、実際は外国人が一人もいない岐阜刑務所に送られた。岐阜は LB 級 (L はロングの頭文字で長期刑を表す。B は初犯の A に対して再犯を表す。) で、6 割の人は殺人、4 割は無期、というアメリカ風に言えば重犯罪刑務所でした。日本には約 60 か所の刑務所がある中、LB 級は「旭川、岐阜、熊本、徳島刑務所」の 4 か所だけである。

刑務所に入るとき、適性検査的なものがある、わりと IQ の高い人が技術を必要とする印刷工場に配属されるケースが多い。

私の場合は工場の担当職員が競技が好きで、卓球大会と囲碁大会を控えていた時期でしたから、中国人のこいつなら強いかもと考え、配属させたと聞

いた。しかし残念ながら、私はどちらでも得意ではなく、囲碁に関しては触ったこともなかった。この件で職員に中国の国技だから強くないとおかしいだろうと因縁をつけられ、これだけで厳しく当てられた。じゃああなたは日本人だから相撲は強いのかと聞き返し、担当抗弁として隔離された。理由はもちろん国技の話ではなく、職員に向かって、あなたと言ったのがいけなかった。

「おまえ」と「てめえ」って職員に言われるのが日常茶飯事なのに、受刑者が「あなた」と言うだけで暴言と言われるのが日本の刑務所。

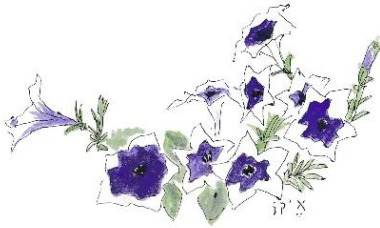
そんな刑務所の中で松永さんは模範囚として、書記という受刑者だけ職員の仕事の一部補佐していた地位にいました。俺はあと 1~2 年で出るけど、13 年の刑はここでは短いほうだから頑張りなさいと松永さんに言われたのを記憶している。そしてここで私が松永さんに囲碁を学び、たまには手ほどきを受けていた。このころでは思いもよらなかったことは二つがあった。

一つはあれから 13 年が経って、やつと松永さんが出られたこと。

もう一つは 14 年後にシヤバで二人が囲碁をさしたことでした。

私は2014年に満期で出所し、その次の年に松永さんがやっと出所した。

私がMという団体で編集長をしたことがあり、貧困ビジネス路線に反対したがために追放され、その実態を知らなかった松永さんはそこにボランティアスタッフとして参加するようになっていた。



出所して間もないころで、松永さんが脳梗塞で倒れ、保護会にいたため、職員にいち早く発見され、足が少し不自由になっただけで済み、その後、一人暮らしもできるようになりました。

発見したとき、職員が井手シスターに連絡し、井手シスターが割と近かった私に状況を知らせてくださった。

その晩は面会できませんでしたが、翌日プロジェクトのスタッフである本田さんに見舞に行ってもらった。それが縁で松永さんはPJの活動に参加するようになり、本田さんが天使に見え

たと話すようになった。

松永さんは自衛隊にもいて、体が丈夫だったと聞く。そしてリハビリにも耐え、杖をもすぐに手放したほど回復が早かった。PJの事務局に来ては、カビと埃を気にもせず、コツコツと寄付された本を整理してくださった。

事務局はみんなが想像するより過酷で、夏は冷房代が払えないため、本田さんのアイデアでみんなが首に保冷剤を巻き、暑さに耐えながら時には12時間も作業していました。

のちに板倉くんという35歳の男性スタッフを紹介してきたのも松永さんでした。板倉くんが本の整理を覚えてくると、松永さんが簿記2級の経験を生かし、会計を担当するようになりました。

事務局ではスタッフの拘束時間が長いので、三食を共にすることもあり、和気あいあいと話しながらの作業が多かった。それが絆にもなり松永さんを筆頭にかえるボーイズと呼ばれていた。

井手シスターの教え子たちである主婦たちはかえるマダムズと呼ぶ？本来はかえるメイトという公式名称があるのですが、なぜか男女で分かれ、こう呼ぶようになった。(脱線)

松永さんはお酒も大好きのように、よく事務局で発泡酒を飲み、少し余裕があるときは安い居酒屋に行くこともありました。生涯で45年間も服役した松永さんにいろいろ体験させるのが私たちの楽しみにもなり、食べてもらうのが好きでした。バーベキューの経験がないというので、田中代表主催のホームレス支援バーベキューにも参加し、今も路上で暮らす方たちと将棋をやりながら、肉をほおぼる姿は実に楽しそうでした。

岐阜刑務所にいた時の仲良し仲間と温泉旅行も体験し、PJの会員に会うために、遠く北海道の札幌まで面会にも行きました。PJは財政難で、面会や文通の費用も一部は自己負担ですから、そのため松永さんはご飯とみそ汁だけで飢えを忍び、面会費用をねん出していました。

昨年末から松永さんは体調が優れず、それでも活動に参加し、時には浮腫んだ足を引きずりながらも、練馬区の自宅から江戸川区の事務局や、横浜の修道院（イベントと会議）、清瀬市の西原瑛子さん宅（家庭集会、かえる工房）まで来てくださり、止めてもこの活動は私の生きがいといって、本当に頑張

ってください。

最後は強制的に休ませ、回復してから一緒に活動しましょうと説得するのも大変でした。

そんな頑張り屋の松永さんは2月8日に天に召されました。享年73歳。

刑務所にいた時から松永さんの面倒をよく見ていたKさんがシャバに出ても実には献身的に松永さんの生活を案じ、亡くなる4日前にも板倉君とともに松永さんを病院に連れて行きました。MRIなども撮り、足にできていた血栓を発見し、心配していました。当日もいつものように定時連絡し、電話に出ない松永さんを案じ、事務局に問い合わせてきた。こっちにも来てないとわかると、二人は大家さんに連絡し、立会いのもと開錠して、こたつの横に倒れていた松永さんを発見した。検死の結果、脳動脈瘤の破裂により、即死の見解でした。苦しまなかったがせめてものの幸いでした。そして松永さんの死をすぐに受け入れるのは困難でした。しかし彼が刑務所で獄死するよりは皆さんとのきずなの中で旅立ったことが幸せだったと思います。

ご冥福をお祈りいたします。

最後となった れもんらーめん



西原瑛子

インスタントラーメンを食べると 1 キロ肥るので、20年ぐらい食べていませんでした。

ところが、年末にNHKでインスタントラーメンばかり、専門に研究している若い男性がおいしい食べ方を紹介していました。

醤油ラーメンを分量の沸騰した湯に割らずに入れて、2分経ったとき箸でほぐし、3分でひきあげ、茹汁に粉末スープを溶かし、レモン輪切り3枚入れて茹でた麺を入れ、小松菜かチンゲン菜かをチンしたものを載せて、刻み葱をのせる。他の物を載せないのです。

83歳にもなると、ラーメンでも、うどんでも1人前は多すぎるのです。でも半分では足りない。7分目か8分目が丁度よいのです。

1月27日が家庭集会で松永さんは出席してくださり、28日の礼拝にも来られました。礼拝後、私の家でかえる工房のミニカードを私が印刷したものを、松永さんが、きちんと折り、封筒に入れる作業をしてくださったのです。そ

の時のお昼ごはんに「あ、チャンス!!」
「1,2と0,8だ」

「レモンラーメン試してみよう！」
と、嬉しくなりました。

「私はラーメン食べたいんだけど、松永さんラーメンでもいい？」

「いいですよー」と元気な声が返ってきました。ラーメンの容器もださなくちゃ！脊椎手術して半年。まだコルセットをつけている私が椅子の上に上がって、天袋にいられてある、ラーメン用の容器を出そうとしたら、「取ってやる、取ってやる」

くなんて優しいのだろう・けど彼は脚が不自由。倒れて骨折でもしたら大変だ！>「ありがとね。受け取って」無事に井二つおろせました。

レモンの香りと酸味が貝柱スープに溶け合ってそれはそれはおいしかったのです。松永さんも「満足です」と。

2月3日にLINEを入れていました。4日に礼拝に来るのかどうか連絡がなかったからです。LINEのやりとりも大切な形見となりました。

平和のうちに身を横たえ、私は眠ります。主よ、あなただけが、確かにわたしをここに住まわせてくださるのです。

詩編4：9

ピョンチャン・オリンピック

Gabrielaiko s. c. q.

羽生選手の参加云々が気になって他の種目への関心がうすかった。ところが、TVを見ているうちに、知らない種目が次々に出てくる。その筆頭がパシュートだ。金メダルの高木美帆、高木菜那、佐藤綾乃選手らの走法はすばらしかった。



素晴らしさの秘密

一糸乱れぬ隊列

チームで戦うために、日本は常に「隊列」を意識してた。

前後の選手の間隔が、数十センチという極限の近さで、手足の動きをピタリとそろえる。少しでもズレれば、手足がぶつかり、転倒のリスクさえある、高度な技術だ。隊列が乱れると、後ろの選手が一人で滑っているのと同じくらいの空気抵抗を受け、体力を消耗してしまう。これを防いだ。

高速の先頭交代

王者オランダの交代が約7秒、日本は約4秒。通常の交代は先頭の選手がスピードを落として最後尾に回る。この方法だと最後尾につくとき再びトップスピードまで上げることになるが、スピードの調整は体力の消耗につながる。

日本は、先頭の選手がスピードを落とさずに一度コースの外側に大きく膨らみ、そこから最後尾に戻る形で先頭を交代する。こうすることで、先頭の選手はスピードの上げ下げをする必要がなく、体力の消耗を抑えられる。

エースを生かしきる

エース高木美帆選手を極限まで生かす戦略。体力がある高木が、全6周のうち4周を先頭で滑ることで、他の選手の体力の消耗を抑えた。

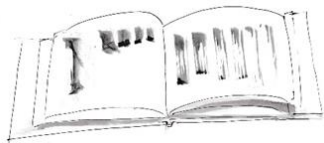
(ルール：全選手が1週は先頭を走らなければならない)

金メダルへの創意工夫は、これからただちに、他国にも取り入れられるだろう。そのとき、日本はまた何を生み出し、見せてくれるのだろうか！

いまパラリンピックである。ハンディを負った選手の活躍に目を見張っている。なんと素晴らしく気高いことか。あそこまでできるのか！ウルウル感嘆しながらTVを観ている。

「ほっこりかえる」の誕生

庄子佳代子



「かえる」の参加者の中で、「ほっこりかえる」という絵本を読むサークルができました。きっかけは1月14日の講演会でした。

担当の私が当日朗読した「みにくいシュレック」（ウィリアム・スタイグ作・セーラー出版）は、見た目が醜く、意地悪なシュレックが主人公の絵本です。シュレックは誰からも嫌がれますが、そんな自分が大好きでした。そしてもっと醜い王女様に惚れて、めでたく結ばれます。醜い、性格が悪い、頭が悪い、世間一般にはマイナス要素ですが、そんな自分が大好きなら、どうってことないんじゃない、というメッセージが伝わります。

私はシュレックとは大違いで、自分の障害や醜さに随分囚われていました。でも、小学校で働き、子どもたちと過ごす中で、囚われから解放された、という話をしました。

後日、シスター井手から、「シュレック」についてもう一度、感想を分かち合いませんか、と勧めていただき、2月1日に10名が集まりました。みんなでゆっくり感想を話すことで、内容が深められ、新たな感動がありました。集まりは今後も続けることになり、4月2日に「100万回生きたねこ」（佐野洋子作・講談社）を読みます。隔月

で、次は6月4日（月）13:30～、の予定です。興味のある方は是非ご参加ください。絵本を読み合い、それぞれの思いを分かち合うときを、これからも大切に続けられればと考えています。

誕生カードをお贈りします

誕生カード担当 M.ロザリア綾神様はお造りになった全てのものを「極めて良かった」とご覧になりました。人間も神様に造っていただきました。一人ひとり「良く」造られ、生きていることには意味があります。

プロジェクトでは誕生月日を登録されている内部会員に誕生カードをお贈りすることに致しました。（うた12号12頁参照）。ご要望により、お申し出られた非会員の方々にもお贈りすることに致しました。希望者は事務局まで誕生月日をお知らせください。担当者と協力者が心を込めてカードを書きます。今回、カードをお贈りするのは下記の方々です。

お誕生日、おめでとうございます!!

4月生まれ K.K.さん、S.T.さん
M.N.さん 事務局長 汪楠さん
5月生まれ H.K.さん、S.A.さん
6月生まれ K.N.さん、T.A.さん
H.S.さん、O.さん、K.I.さん、
Y.Hさん

LETTERS

大分は収容者に厳しい所で、作業報奨金の使用を領置金を持っている人に対して認めないとかになりました。この時期になると更に、必要最低限の使用しか認めないとかいう告知も加わり、どんだけ金ないん？と思ってます。塩分制限とか言い、椀が小さくなる上、食事の量も前より更に減り、塩分制限以前の量になってます。今、大分にいる人達は、よく我慢してると思います。893がない所なので、誰も声を上げないし、行動にも出ないからかもしれません。

かえるの「わんレター」早くも続きが読みたいです。所内、輩が多すぎて、もう笑うしかありません。ルールや規律を守ってても、衝突したら負けだそうですね。後ろからカマ掘られても、事故を起こしたという事で、お互いアウトみたい。笑うしかありません。

正月休み、いつもならば、3日間共おもちが出ます。去年、いつもと違って、ビニル袋に、ビー玉大の白玉団子が6個、のみでした。いくらなんでも、という事なんでしょう。今年は元に戻ったんですが、「サトウの切りもち」1個を半分にしたのをば、2個(つまり1コ)、それが2口、日出ただけでした。(しかも半生)2/5に減りました。そもそも、年末は予算捻出する為なのか、食事の質、量と低下しているのに更に追い打ちが。まあ、生活保護もらって

るのに額が足りんと言ってる様なもので、私達の意見は、そもそも犯罪犯す方が悪いとかで、切り捨てられるたぐいの話ですけど、そもそもの環境が正常でない、国やら行政がやっているから大丈夫だろうという性善論。

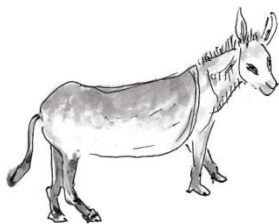
刑務所に入らないとわからない。でも入ると線を引かれてしまっていて、声すらもう届かない。出れなくて良いから、好きなもの喰わせろっていうムキのグチを聞くしかなく。もうずっと、悪くなってく様を、何も出来ずに見続けている訳ですが。底が見えないのがとても恐いです。

アンケートを開封しております。どの団体も刑務所の違いを明確にしている所は無いと思うので、そういうデータをまとめ、欲しい受刑者に販売するのも面白いかと思います。今の所、ユーレイ部員ですが、会報は欲しいので、運営的にも「愛子レター」やら何やらに入った方が都合が良いんでしょうか？

とりあえず、文通とか、メーク掛けるし、文も下手ですので、不要ですが会報をば、続けて読みたいと。一応切手、同封します。ワガママな、申し出、多忙でしょうが対応して頂けると助かります。去年、旭川刑務所ムキの方が一人出所されたそうですね。B級もA級もムキはとりあえず30年とくくられてるのならば、ムキだけで施設を作れば良いと思います。ムキは受刑者の中でも区別され更に不自由な環境にならざるをえないのでありますから。グチばっか、長文、すみませんでした。

(原文のまま)

穴に落ちたロバ



ある日、百姓のロバがもう長いこと使っていない井戸の穴に落ちました。百姓がどうしたものかと、思案している間に、ロバは悲しい声を上げてなきました。百姓はロバがいずれにしても、もう年を取ってるし、井戸もいずれは埋め立てようと考えていたことを考えました。

それで彼はろばを穴から助け出す労力を費やす甲斐はないと考えて、井戸を埋め立てるために近所の人を呼び集め、皆でいっしょに、井戸の穴にごみを放り込んで埋めようとしてました。

ところが、びっくりしたことに、ロバは静かになったのです。何度かゴミを投げ入れた後で百姓が穴の中を覗いてみますと、ロバが自分の体に降りかかったゴミを振り落とし、それを足で踏み固めているのが分かりました。ゴミが投げ込まれるたびにロバは少しずつ上に上がって来ました。

そして最後に井戸の淵から飛び出して逃げていったのです。

(オリエントの昔話)

東洋には塞翁が馬というのがあります。何を言いたいかという、何でも悲観してはいけなないと私は思う。不幸に遭ったとき、そこから何を学び、何を心得るかで人生が違ってきます。

夜と霧でも有名なヴィクトールフランクルが言われるように、私たちに変わる自由があります。視点が変われば物事が違って見えるように、逆境を生かさせてこそ人生です。

刑務所に入るということは、犯罪をしたからです。そこに至るまでにいろいろ事情もあると思います。そして罪もあります。

しかし単純に一人の人生から考えた時、これは不本意な出来事と思います。ここはあえて穴に落ちたに例えたい。

いま、穴に落ちたロバのあなたは何かを考えますか？年を取ってしまったことを嘆きますか？助けてくれない人に怒りを感じますか？それでもそこに井戸があることに憤慨しますか？

私ならなんでそこを歩いたのかも考えるし、あたかもなぜあの日、あの場所で犯罪をしたように、あそこに行かなければ捕まらなかったのにと考えていました。

近所の人には助けてくれないと怒る？あたかも共犯が自分を売るような供述をしなければ自分は助かったのにと怒るように。

それでも主人の冷たさに怒る？あたかも主犯格が自己保身のために手下の自分たちを切り捨てたことに怒るように。

このような考え方をしているは何も生まれぬ、進まない。考え方をかえることで人生も変わります。ロバですら考えられ、実行できるのに、どうして私たちにできないと言える？まずできると信じ、頑張ってみよう。できなかったらまた PJ に入会するだけのことです。(笑) 汪楠

事務局からのお知らせ

事務局長 汪 楠

その1 対応の遅れ

PJの常勤スタッフで、会計担当の松永さんが亡くなり、もう一人の常勤スタッフの板倉君も重篤な親族の看病という状況の変化で、PJの活動をやめました。私一人に事務処理が集中し、対応が遅れています。申し訳ありません。

さらに悪いことが続きました。PJ会員の1人が出所し、一時的に事務局に泊めていました。彼は窃盗の常習犯で前科7犯。間もなく290円の物を万引き、逮捕されました。

彼が事務局のパソコンを無断で使い、未保存のデータが飛んでしまった。飛んだのは主に日々使う会計のエクセルデータです。会員からの入金是他に手書きの記録もあるので、大部分は修復可能です。しかし、会員預り金の出金はその都度入力していて、他に記録はありません。会員から徴収すべき部分が消えてしまいました。1月1日から2月10日まで、PJと購入代金などやり取りした人はわかる範囲で自己申告をお願いします。その後で不明金はPJが負担します。

被害はこれだけではありません。会員からの預かり切手も1万円相当行方

不明。私個人の小銭箱からはコインが消え、残っているのは1円玉だけです。こんなひどいことをしたのに、留置所から国選弁護士を通じて、示談金を出して欲しいと言ってきた。1万円でしたけど、出しませんでした。

ご厚意に感謝していますという手紙が届き、そこには差入の願いがありました。厚かましいにも程がある。そのうえ、情状証人を依頼してきました。

更生支援活動をしている立場上、また個人的にも受刑経験があるので、警察に被害届を出すのは抵抗があり、出しませんでした。

斯かる諸事情により、会員の皆様への対応がいつも以上に遅れています。大変申し訳ありません。

その2 会員の種類と支援

内部会員は、第1・第2・第3部にわかれます。

第1部 初期の会員で、年会費が僅か500円。支援したい気持ちだけで料金を設定した為、活動を継続していく採算が取れません。入会を認めるだけで赤字を生み、事務量も増えます。

打開策として、**OBOG・こがえるメイト制**（うた12号参照）を提案しましたが、結果はOBOGへの登録2名のみ。1年間の試行期間を終わり、この制度は

終了します。2名の方は第2部か第3部への入会も可能です。

第2部 年会費 2000 円。年に3回だけ本を送る部。ここで出た利益を第1部の会員をサポートする経費の一部を賄おうと考えていました。でもいざ入会者が出ると、やはり相談を受けると対応せざるにいられず、ネット検索をすると、時間がかかり、赤字を生みます。これでは活動を継続できません。

第3部 そこで第3部を作りました。年会費 2000 円。第1部と同じサービスを受けられる

第1部はネット検索結果を印刷する場合、1枚10円でしたが、50円に変更するなど、新規の会員に対して実費に近い料金を徴収するようになりました。これが現状である。

第1部の会員に対して、入会当初の料金で対応したいとの思いがあって、そうしてきたが、もう無理です。当初の約束と違うと指摘されるかもしれません。しかし、第1部会員の8割が年会費を未納の現状からみて、それを批判される覚えもないと考える。他団体は年会費 4000 円～5000 円を徴収している。PJの2000円は決して高くないのではないかと思います。そこで全受刑者会員に対して、統一したサポートを提供することにしました。

登録料 500 円は廃止。年会費は 2000 円。検索料は一枚につき 100 円。写真は L 版 150 円。2L 版は 250 円。SNS の検索は 1 件 1000 円で、印刷結果は 1 枚につき 100 円。検索結果や写真の送料は重さに応じて変動。書籍の転送料は 1 冊約 100 円、重い場合は実費になります。書籍及びギフトの購入は代金と送料の合計金額の 30% 相当の寄付をお願いしています。

無償本提供は、年間で 3 回まで送料は PJ 負担。財政難であることを理解し、半数以上の会員は自発的に送料を負担していることから、PJ では送料の自己負担を推奨します。ご協力をお願いします。送料は本の重さにもよるが、1 冊 100 円が平均値。辞書とかは 510 円のレターパックになります。

転送についてはアマゾンに注文する際、発送封筒の表に PJ の住所と担当者個人名を記載することで、直接発送することができる場合があります。しかし問題は 100%ではないこと。また注文を確定させないと業者のメルアドが表示されないシステムになっていることから、例えば 10 冊の注文依頼があった場合、10 冊でレジに進み、支払いを済ませた後、1 冊ずつ業者にメールを送り、注文内容を変更する形で対応を求めています。そうすると対応して

くれない業者も出てきます。本は PJ に送られてきます。

会員からは直送でお願いしたのに、転送されて転送料を徴収されたという苦情が来ます。このような事情を知らない会員からはなぜ同じ刑務所にいるのに、あの人は直送で安く、自分は転送されて余計に数百円を徴収されるのかという苦情が出ます。

上記の事情により、個人名の記載がないと受け取りを拒否する刑務所に収容の会員については購入代行を依頼する際は転送を基本とし、転送料は1回300円、重さは2キロまでとする。運よく直送できたとしても転送料を徴収し、運営費に充てます。

この変更に対して不満に思う方もあるかと思います。年会費を納めている会員は、苦情を代表田中伸彦または副代表井手愛子まで申し出てください。未納会員は速やかに納入し、あらためて苦情を申請してください。そうでない場合は退会勧告もありえます。

その3 寄贈本の購入

寄付された書籍を自発的に購入している会員が増えています。PJの活動を理解し、活動を継続させるために協力しています。そこでカンパ用の書籍リストを作り、配布しています。在庫状況

については毎日変化があるため、在庫切れが発生するケースも多々あります。そのため、必ず希望冊数を記入したうえで、多めにリクエストしてください。

その4 無償本提供

必ず希望冊数を記入したうえでリクエストしてください。律儀に3冊しか頼まない方もいます。その3冊が在庫切れだと、ものすごく申し訳ない気持ちになります。そして刑務所内は荷物に制限を設けていることを承知しています。内部会員から送付する書籍の量についても注文が来ますが、事務局もとても狭く、保管場所に限りがあります。そのため、リクエストがあり次第、発送を優先しています。

年に3回PJが送料を負担して送る書籍に関しては、PJの会員の多くは家族も知人もいない方で、ほとんどが荷物も少なめな(いわば貧困層)受刑者です。

この層に合わせて発送を早めることもあります。こっちの都合も考えずに本を送ってきて困るという指摘を受けることがあります。受刑者からの依頼のほとんどを一人に対応している事務局長として、皆様のご意見を参考に、双方にとってベストな解決方法を見いだせないかと考えています。ぜひご意見をお寄せください。

第2期決算報告書

(2016/10/1～2017/9/30)

収入科目	金額
前年度繰越	-686,609
今年度拠出金	0
外部会員会費	108,000
内部会員会費・登録料	10,000
寄付	990,511
汪氏立替金	1,092,902
収入合計	1,514,804

支出科目	金額
会報発行費	56,000
書籍送料	71,504
備品費	88,992
事務消耗品費	196,730
書籍購入費	203,362
通信費	89,415
振込手数料	9,725
書籍運搬料	152,544
福利厚生費	84,146
交通費	144,450
人件費	0
光熱費	120,000
会議費	117,803

会費免除者分補填	5,500
受刑者支援	10,000
他団体への寄付	30,000
ホームレス支援費	134,633
支出合計	1,514,804

決算報告書ができました。前期に比べ、支出額がかなり減ったのは初期投資が終わり、そしてカリタス女子短大の閉学に伴い、備品や大量の消耗品、紙とペンなどを譲り受け、経費を削減できたからです。

交通費が前期の半分に減ったのはスタッフの個人負担分が増え、計上を控えた結果です。

書籍運搬費が減ったのは個人宅に行き、寄付本を引き取る回数を減らしたためです。

出所者が事務局を訪ねてくれるようになり、その飲食費の一部は福利厚生費に計上し、運営に関する提案がある場合は会議費に計上した。

全体を見ますと赤字に変わりはなく、汪の立替金は100万を超えています。前年度は約70万円の赤字に対して、今年度は約40万円の赤字で、かなり改善されています。運営側として感じるのは受刑者の協力であり、数百円と少額ではありますが、寄付する会員が増えています。寄付とともにお手紙でどうか活動を継続してほしいと訴える受刑者が実に多くなりました。

内外の会員及び支援者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

編集後記

会計作業は地味で疲れる作業です。毎月往復3時間以上の電車に乗り、遠く横浜の修道院に通い、会計担当者会議に出席するのは本当に大変でした。

会計責任者である松永氏が急死されたことも大変ショックでした。刑務所で学んだ簿記を生かそうと、松永氏は電卓とペンで計算し、丁寧に切手一枚ずつ数える姿を思い出します。きっと今も天国で応援していると思います。

今年度も半分が終わり、財政面ではさらに改善される見込みでした。しかし、出所者スタッフに生活費を貸し、返済されなかったこともあり、盗まれることもありましたので、その分の損金が生じたことで赤字は増えてしまうと思われます。

実は私個人にもいろいろと問題が発生し、電話にも出ない日が続いています。鬱というのかな、何もする気力がなくて、食事もとらなかったから十数キロもやせました。借金してまでして助けた人間にお金を持ち逃げされ、スタッフの急死も重なり、本当に嫌になりました。そこで届く受刑者からの催促の手紙で精神が一気に崩壊した。

今、ホームレスの男性とDV被害の女性が事務に参加するようになり、助けているつもりの方が助けられ、起き上がって活動を再開できるようになりました。おかげで外出もできるようになり、事務局長としての責任に応えようと動けるようにもなりました。

ありがとう。 汪

かえるのうたは年6回発行でしたが、財政難により年4回の発行となります。

ほんにかえるプロジェクトは会員を募集しています。正会員の年会費は3000円。寄付もお待ちしています。

振込先

ゆうちょ銀行 10160-86239211

他行からの場合

ゆうちょ銀行 018 支店

(普) 8623921

口座名義は

ほんにかえるプロジェクト

ほんにかえるプロジェクトはボランティアスタッフを募集しています。在宅のままでできるパソコン入力と文通スタッフが特に不足しています。自宅の住所を公開する必要もありません。プライバシー保護に細心の注意を払っております。

プロジェクトの活動資金の捻出の一環としてオリジナル葉書のほかに小冊子も販売するようになりました。第1冊目は汪が書いた「私の生い立ち」(A5サイズ 88頁)、500円で販売し、その収益は全額支援活動に充てます。好評につき、手作業で増刷中です。

発行所

〒134-0003 東京都江戸川区

春江町 5-15-31

ほんにかえるプロジェクト事務局

電話 080-8811-5465